

滋賀県介護の魅力等発信部会 (令和6年度 第2回)

○日 時 令和6年10月25日(金)10:00~12:00

○場 所 大津合同庁舎3階 入札室 (オンライン会議併用)

○出席委員 河岸委員(部会長)、東委員、安原委員、鈴木委員(副部会長)、後藤委員、中村委員、築地委員

○欠席委員 山委員、山岡委員

○オブザーバー 大津市 井上氏、草津市 木村氏

○欠席オブザーバー 長浜市 田中氏

○議 題

- (1) 市町と連携した小中学生への魅力発信について
 - ・市町向け出前講座マニュアル(案)
- (2) 令和6年度介護のしごと魅力発信事業について
 - ・事業実施の経過報告
- (3) 令和7年度介護のしごと魅力発信事業について(案)
 - ・「すまいる・あくしょんフェスタ」への出展
 - ・しがけあアンバサダーの出前講座
 - ・11月11日「介護の日」ライトアップ
- (4) 今後の介護の魅力等発信部会での主な検討項目について
 - ・魅力発信の細分化
 - ・市町との魅力発信の手分け

1. 議題(1) 市町と連携した小中学生への魅力発信について

※資料1により事務局から説明

【オブザーバー草津市】

- 資料1のP1④の中学校技術・家庭部会長との協議、⑤の技術・家庭部会での事業説明のように部署を絞ってマニュアルが作られているが、技術・家庭部が職業体験等の部署かもしれないが、学校版のSDGsのように色々なメニューで載せられる可能性がある。
- 部署を絞るのではなく、中学校側のニーズを踏まえた上で対応できるようにした方が、より融通が利く考える。
- ⑤番⑥番のあいだの中学校からの申し込みを待つという段階で、申し込みがない可能性が非常に高い。もし申し込みがない場合どうするかも示したほうが良いと考える。

【事務局】

- 技術・家庭部門に絞らずに、他のところに働きかけてもいいのではないかとということか。

【オブザーバー草津市】

- 今回草津市が中学校向けの体験に至るまでにしたことは、市役所の中の学校教育部門と話しをし、

そのような内容ならということで SDGs の話を踏まえてお話をしたという経過がある。

○そのあたりの事情は市町により違う可能性があるので、庁内の教育委員会部門との協議が必要かと考える。

【事務局】

○技術・家庭部門に絞らず、一旦教育委員会と話し、その後に必要に応じて人権のところにアプローチする場合もあるということか。

○⑤⑥の間に何をするかだが、今回、長浜市と連携させてもらった時は、4校ほどだったので、直接アプローチをしてもらった。

○大津市・草津市の方では、どうしているのか、もしくは考えているのか。

【オブザーバー大津市】

○大津市では、中学校の出前講座は今年度で3年目になる、今年度については校長会での説明までは必要ないと教育委員会から言われ、学校の方には浸透してきたと考える。何校かは連続で依頼があるので、継続することによって依頼があると考える。

○令和5年度は、この資料⑥の中学校からの申し込みが1、2校だったので、大津市から直接中学校に営業に行った。

○市社協を通じて講師を派遣しているが、市社協に高齢者の疑似体験をする道具(車いす等)だけを借りに来るという申し込みがある場合、道具だけでなく実際の介護現場の話もできないかという営業もしている。

【オブザーバー草津市】

○校長会で話しをして中学校側からのアクションを待つのは、今までの事例からは申し込みのないことが多かった。

○今年度が初年度だが、1つの中学校に絞って営業をかけ、やっと魅力発信の事業に繋がったという経緯がある。待っているだけではなく、動かなければ難しいと考える。

【事務局】

○その1つの学校を選択されたのは、熱心そうな雰囲気のある学校だったからか。

【オブザーバー草津市】

○去年の同課課長の知り合いの学校であった。

【事務局】

○長浜市もそのようなつてで営業してもらっている。

【部会長】

○中学校に対して出前講座を実施する事業をつくるという話し合いになっていると思う。大津市、草津市、長浜市のように動かれている市町もあるが、それを県内全域に広げて、どの市町でも同じような取り組みが進むことを目的にするということか。

○やり方を揃えるのではなく、市町独自の流れを作っていくということか。

【事務局】

○この通りにして下さいではなく、まだ取り組まれている市町に先進事例を伝えるためのものである。極

端に言えば、校長会はなくてもいけるのなら飛ばしてもらったらよい。

【部会長】

○学校へのアプローチのイメージは、市町が動くのが主か。

【事務局】

○教育委員会の分け方で考えると、高校は県立、小中学校は市立、町立になる。教育委員会を通さなければいけないので、市町に関わってもらう方がスムーズかと思う。県が一括して各市町の教育委員会に働きかけるより、同じ庁舎に入っているところからしてもらうのがよいと考える。

【部会長】

○市町が働き掛け、申し込みがあった場合は、介サ連を主にしつつ色々なイベントや出前講座を動かしていくイメージか。

【事務局】

○その通りである。

【委員】

- 講師の選定の段階で、各圏域の協議会に話を持って行くという流れは賛成であるが、その前段階の連合会の中の共有等、準備の時間やスケジュールを組んでやらないといけないと考える。
- 連合会は今年度であれば、12月と、3月末に役員会があり活動が終わる。この出前講座を役員会の流れにどう乗せるか。
- 最終的には圏域から市町単位に落とし込まないといけない。東近江市の事業者として市といろいろな連携を組んで人材確保で動いてる。圏域となると2市2町となり、各市町の担当者を決めてもらう等、時間をかけて体制を作らないといけないとイメージしている。
- 介護職員の人材確保等、市町単位でやっている取組と少し絡んでくる。東近江市との会議があったとき、この出前講座の話を出したが、圏域の残りの1市2町でもやっていく必要があると考える。東近江市以外、顔の見える関係が出来ていないので、そのあたりも考えた方がスムーズに行く。
- そのあたりをこのスケジュールに組み込み、そのような場を持ってほしいと思う。

【部会長】

- 東近江市は事業を展開されている場所なので、市町との連携もとりやすいが、近江八幡市、日野町、竜王町となると、活動範囲外になるので関係が難しいというところか。
- 各圏域にある事業者協議会で、市町単位でこの事業に関わる担当者を作って、直接行政と連携するような仕組み作りができると、スムーズに連携できると考える。

【委員】

- コロナ渦の応援事業で、東近江圏域で各市町の担当者に集ってもらい、こちらからの投げかけに市町単位で動いてもらった。このイメージに似ていると考える。
- 各市町に出前講座を提供できる講師がいたら、その後、ちょっと依頼したいことがあっても上手くいくと考える。

【副部会長】

○湖東圏域では彦根市が主となり動けると考える。他の4町の動きが難しいので、どうすればよいかと考

えながら、話を聞いていた。市町と連携をしながら進めて行かないといけない。1市4町で、同じように検討してもらえると良いと考える。

【委員】

- 募集の段階でどの様にしていくのかがポイントだと考える。募集をかけても来ないのは、学校側が興味を持っていないということで、興味を持ってもらえないと、一番介護の魅力を伝えたい生徒に届かないということになる。全体的な流れとしては、まずはこのハード面のやり方を変えないといけないと考える。
- 学校側が興味を持つような内容（チラシや募集のかけ方等）がなければ、学校側に協力体制を作ってもらえない。
- 営業をかけることも大事だが営業をかけるには営業力がいる。営業面のことができる人でなければ学校側に興味を持ってもらうことはできない。
- チラシを作って説明に行けば、学校側は聞いてくれるが、聞くだけで興味を持ってくれない。実施するにはハードルがある。営業のかけ方を変えた方がいいと考える。
- 内容のことについては、共通の内容で各市町に介護の魅力を伝えられるような講義や講師の人がいるのが理想だと考えるが、ソフト面のことになってくる。まだその段階ではないので、まずはハード面を上手くやっていく方がいいと考える。
- 講師が芸能人であったり、ひこにゃんが来る等、学校側に全然違うところから興味を持ってもらえるくらいのことをしないとけないと考える。

【部会長】

- 芸能人みたいなものを、介護業界の中からアンバサダーが担ってくれるとよいと考える。

【委員】

- 今日、会議に出席している方々もそうだが、良いものを持っている人は多いが、それを発信する能力がこの業界にはないので、ハード面がないというを感じる。
- 出前講座を受けた学校の生徒さんにおやつを配る等、何らかの仕掛けをし、まずはそのハードルをクリアしないと素晴らしい内容を持っていたとしても、内容を伝えられない。
- このまま教育委員会や学校に説明に行っても、こんなことをやっているというぐらいにしか思われず、業務が増えるだけだからやらないとなると考える。

【委員】

- 高校生向けのふく・楽カフェは、年度初めに高校にチラシを配布して、昨年度までは待っている状態であった。待っていても福祉コースがあるところからは例年通り申し込みはあるが、それ以外のところは一切ない。
- 今年度に関しては、何校か直接高校に出向いて声をかけた。それでもなかなか増えないというのが現状である。アプローチの仕方はまだまだ工夫が必要であると考えている。
- アンバサダーの活用について、今回、ふく・楽カフェで社会福祉法人近江和順会のあやかさんに講師で行ってもらう。それ以外はなかなか活用できていない。
- 学校や校長会に対してアンバサダーのことがどこまで伝わっているのか、まず知ってもらうことがクリアするべきことである。
- アンバサダーの管轄は県か、Jコミか。それとも直接アンバサダーに申し込みをすればいいのか。

【事務局】

- 委託事業のときは県だが、今は介護業界団体になる。出前講座のときも、事務局で誰に行ってもらう等、

決めている。

【委員】

○県社協でも、今後いろいろとできることがあるとは思っているので、アンバサダーについても活用していきたいと考える。他に活動している部分が見えないので、人材センターとしてもどんどん活用をしていけたらと考えている。

【部会長】

○次の議題にもあるが、アンバサダーをどの様に動かしていくのか、きっちり作っていく必要がある。今はJ コミ主体で動かしているところがあるので、事業者団体側が上手く活用していけるような取り決めや線引きが必要だと考える。

2. 議題（2）令和6年度介護のしごと魅力発信事業について

・事業実施の経過報告

※資料2により補助事業の事務局介護福祉士会から説明

【事務局】

○新しいアンバサダーさん2名のポスター作成や、インスタにいつ頃あげるか等、J コミと話はしているのか。

【委員】

○早急に確認する。

【委員】

○全体としてどういう到達、効果を狙っているのかということと、報告の関係性がわからない。非常に熱心にやっていることはよくわかる。

【委員】

○介護の魅力を発信するのが主たる目的であるが、その魅力をどう伝えていくのかが固まっていないうまま、去年の事業と同様になっていることが非常に勿体ないというのが個人的な意見である。今年度、各団体に協力いただいて、インスタで各職員が思う魅力をあげたことにより、しがけあという言葉、介護の職員自身が自分の言葉で発信できたというのは、一つ大きなことかとは考えている。

【委員】

○この件のKPIはどのように設定していたのか。決めていなかったのか。

【事務局】

○決めていた。量的目標としては、しがけあサイトへの来訪者が延べ6万人以上になる、しがけあプロジェクトの認知率を現在よりも上昇させること、質的目標としては、しがけあプロジェクトに触れた人のうち7割の人が何らかの態度変容を起こす、介護の仕事への就労意向を現在よりも上昇させることである。

【部会長】

○3Kのクリアファイルをイベントで配布するということだが、それ以外の活用方法はどのようなのか。団体に

配って配布してもらおう等、どこでどう配布するのか、介護福祉会の方で何か案はあるのか。

【委員】

○まだ、そこまで話ができてない。クリアファイルは 2 万枚あり、イベント当日の配布を極力最小限にして、翌年度にしがけあを繋げられるように活用してもらおうほうが有効的と考えている。

【部会長】

○今年度のメインはしがけあフェスタで配布をし、次年度以降に活用していく感じか。

【委員】

○そうだ。しがけあは次年度以降もやって行くので、協賛を集めるツールとして使用したり、次年度に繋がるツールとして活用したほうが良いと思っている。

【部会長】

○アンバサダーが新しく 2 名追加ということだが、団体全体も含めて、今までのアンバサダーのしっかりとした紹介が周知出来ていない。アンバサダーを紹介できる機会があればいいと考える。

○今年度はあと半年もないが、介護福祉士会でもアンバサダーをしっかり紹介する機会をつくってもらえるとありがたい。

【委員】

○クリアファイルのことは少し気になっている。どのように配布し活用したらいいのか。デザインも確認したが、せっかく作ったものなので、どうしたものかと思っている。

3. 議題（3）－1 令和7年度介護のしごと魅力発信事業について（案）

・「すまいる・あくしょんフェスタ」への出展

・しがけあアンバサダーの出前講座

※資料3により事務局から説明

【部会長】

○すまいる・あくしょんフェスタに行ってきたが、印象として大津のフェスタと似た感じだった。

○会場は、体育館のように広くブース分けはされているようだったが、混雑したイメージだった。

○大津のフェスタと同様、一つ一つのブースが体験をメインで一生懸命されていて、もの作りでも一つのブースが頑張っておられるように見えた。

○しがけあフェスタのように事業者団体で出すと準備が非常に難しく感じ、そこが課題であると考えた。

○食べ物は屋外にキッチンカーが並んでいたが、体育館の中は子供向けの体験ブースで、何かを作ったり、お仕事体験や、メダカ等の生き物とかを扱い、触れるコーナーもあり、かなり賑わっていた。

○キッチンカーは3台来ていて、行列ができ大繁盛だった。特に周りに商業施設とかがなく、わざわざ来場する人ばかりなので集客方法や広報等が気になった。

○今度、しがけあフェスタはビバシティであるが商業施設と併設なので、目的が違ってもターゲットになるが、すまいる・あくしょんフェスタはそれを目的として来場する人ばかりだと思うので、集客する仕掛けを教えてもらい、介護の魅力発信にも使っていけるといいと考えた。

【委員】

- 初年度からこの介護の魅力発信事業に関わらせていただいている。毎年色々取り組んで、成功している事例と、あまり評価ができない事例もあるが、今滋賀県では各団体が協力しあい、色々やっている。来年度はどの団体が受けるかわからないが、引き続き頑張ってやっていってもらえればと考える。
- 真似するっていう言い方は似つかわしくないかもしれないが、部会長が言ったようにいいものはどんどん取り入れてやっていくことが良いと考える。

【事務局】

- 部会長、先ほどの団体では難しいとは、どういう意味か。

【部会長】

- スマートボールを持ち込んでいたり、準備に結構時間をかけているブースがとても多かった。団体が集まって準備をしていくのは正直難しい。1日だけ集まって何かを作るというレベルではなく、何日もかけてそのブースを出す準備をしていたのではないかと感じるブースが多かった。そういう意味で、広域で色々な団体が集まりブースを出すとなった時に、それを合意形成を図りながらやっていくのは、非常に難しいと感じた。

【委員】

- ブースのことに關しては、大津市で成功しているのは、事業所別でブースを出していることだと考える。
- 販売はして良いのかどうかかわからないが、事業所別に出すのは良い。事業所で責任持ってやって下さいと、事業所としては事業所のアピールにもなる。しがけあフェスタはたくさんのブースがあるわけでもないが、業界団体ではなく、いくつかのブースに分けて事業所に任せてしまうのはどうか。ある程度きまりを決めて、事業所に応募してもらいやってもらう。部会長が言うように、準備が大変なので、事業所に任せてやってしまうというのも、一つの手かと考える。

【部会長】

- 法人単位・事業所単位だと、自分たちのやりたいことを作りやすいブースが出来上がっていくと考える。しがけあフェスタのように滋老協や老健協や介サ連等の団体でブースを出すのは、準備等でやりにくいと感じている部分がある。

【委員】

- すまいる・あくしょんフェスタは子供が対象の発信なので、これらの団体の中に入ってどの様に発信するかというときに、単に子供に喜んでもらう企画をしてそれでいいのか、仕事体験ブースに入り込んだらいいのか、仕事体験ブースにはナースと保育も入っているので、どうしたものかと考えている。
- しがけあアンバサダーの出前講座は実績はあるが、今年度予定している3名の出前講座の内容はどのようなものか。

【委員】

- 今年度は介護福祉士のほうで作成した高齢者のスライドで、高齢者の人口割合と介護の仕事がどのようなものかを説明した上で、高齢者疑似体験をして、その後5分間アンバサダーさんと生徒さんとのディスカッションの中で、この仕事を選んだ理由や年齢がいくつだと思うのか質問したりす

る等、アンバサダーさんと生徒さんが親しみを持てるようなプログラムとしている。

【委員】

○どちらかというと交流的な部分を担うのがアンバサダーだという認識か。

【委員】

○確認したいのだが、今回7年度の事業についてという提案だが、7年度の予算措置については前回第1回の会議で報告があったか。

【事務局】

○来年度予算についてはまだ報告してない。

【委員】

○ということは、今回の提案は予算措置はともかくとして、こういうことをやりましょうかという提案ということか。

【事務局】

○この提案内容で予算を取るように動いているので、この方向で進めたいと考えている。

【委員】

○そうすると、先ほどの質問と同じことの繰り返しになるが、こういった個々の事業はいずれも現場の負担が大きい。これらの事業を組み合わせるとどのような効果を期待するのかについての説明がないと財政部局に対する説得力がないと考える。

○同時に、現場においては個々の事業をやることで一生懸命になり、全体の効果に対する認識が薄れてしまうということになりかねないので、事務局において全体の整合性をしっかりと議論し、個々の事業を提案いただくという順序で進めていただく必要があると考える。

5. 議題（3）－2 令和7年度介護のしごと魅力発信事業について（案）

・11月11日「介護の日」ライトアップ

※資料3により事務局から説明

【委員】

○ライトアップはとてもいいと考えている。メディアに取り上げられることがとても重要である。いろいろなところに発信できるように、しがけあアンバサダーさんにSNSを使って広げてもらうということも大事だと考える。

○今回交流会で驚いたことがあった。外国人のバーベキュー大会でインスタに載せ拡散するため、バーベキュー大会の写真を、各国（7か国）、国別に分けて写真を3枚投稿してください、その3枚投稿した中で一番いいね！を集めた国に対して、ご飯に連れて行くというような企画をした。その結果、驚くような数を拡散してくれ、1位はフィリピンで500以上のいいね！を獲得した。また、フィリピンの投稿をたまたま知り合いの日本人も知っていて、どこかで繋がって広がっているというのをとても感じた。

○このライトアップ事業も何か企画をし、お土産のようなものを渡し、多くの介護職員に来て、写真を

撮ってもらい SNS にアップしてくださいと仕掛けたら、とても広がるのではないかと感じた。

【委員】

- 色々なところで今日はライトアップの日だと知ることができれば良いと思っている。
- しがけあフェスタも同じようにイベントだけで終わるのではなく、参加したみんながインスタ等の SNS に上げて、次年度も意識しながら繋げていくということが大事だと意見を聞きながら感じた。

【副部長】

- ライトアップは色がどうなるのか気になっているが賛成である。

【委員】

- 色について、いろいろな情報を集めてもらい、結果的に押さえるところを押さえてもらえればいい。
- ライトアップの前段階で介護関係者に周知し、いろいろな動きをとってもらえる流れをつくると、今年度に限らずという点で先に繋がるかと考える。

【委員】

- 色は先発している色がたくさんあるので、色のイメージが難しいかもしれない。しかし、それはおいおい考えてくれると思うので、楽しみにしている。

【部長】

- 個人的な思いとして、ライトアップは大賛成で、介護の話を中学校に行くよりもわかりやすいアピールになると考える。介護を前面に出さない介護のアピールに繋がればよい。また、ライトアップはメディアに取り上げられやすいことを考慮すると、しがけあを広く世に伝えていくという意味で「しがけあのカラー」で発信していくのがよいと考える。

【委員】

- ライトアップという手段は選択肢の中にあってよい。ただ、電気の使い過ぎという側面があるので、そのような批判も世の中にはありうるということは踏まえておいたほうがいい。
- 委員方が介護事業者主体で、どうすれば魅力を伝えられるかという供給側のスタンスである。埼玉県で介護従事者に感謝の気持ちを伝えるキャンペーンをやっている。この場合は感謝の気持ちを伝える主体は県民であって、介護事業者や介護従事者に感謝の気持ちを伝えるというキャンペーンである。つまり供給側の介護事業者ではなく、県民が感謝の気持ちを伝えたいという思いを発信するというものになっている。この提案が魅力発信部会から出てるが、県における健康福祉、介護、また医療などに関わる啓発活動なので、啓発活動の主体の側からこれを発信するべきではないか。滋賀県においてそのような啓発活動を主体的に担うセクションというのはどこなのかを確認しながら進める必要があると考える。
- 医療福祉推進課の業務として、県民に対する啓発活動という役割があるのであれば、その枠組みの中でやるのがいい。この委員会で事業の提案として出ているが、この委員会が主体的にやるというよりは、感謝の気持ちを承りますぐらいの気持ちでよい。このこと自体は面白いと思うが、話の大前提が違うのではないかと考える。そういう意味では賛成とは言い切れない。

【事務局】

- 従事者のほうが受ける側で発信するのではなく、従事者でないほうからというのは、わかっているつもりである。ただ、これを魅力発信の手段として使いたいという思いもあり、補助事業側にも乗

ってもらい、インスタに投稿し活用で盛り上げてもらうのは協力いただいてもいいかと感じている。埼玉県のキャンペーンは存じなかったの、部会後に調べて何か事業に反映できる場所があれば考えていきたい。ご意見いただいたことを後でゆっくり考え、落とし込んで今後やっていきたい。

【委員】

- 埼玉県のキャンペーンの内容が言ったような枠組みでされているかどうか分からないが、介護だけではなくいろいろな意味での県民への啓発活動というのは行政の重要な役割だと思うので整理いただいたほうがよい。各部署、各課レベルではなく県全体で調整の上でするのがよい。
- 公共交通等も関わっているが、免許返納も同じである。県の交通戦略課の関連だが、それぞれがやるのは結果としてお金の無駄使いになって、あいだを繋ぐ人たちがもうけるだけで終わっている。これは注意すべきことではないかと改めて思った。その点は強調させていただきたい。

【事務局】

- 課内でとどまらず何かできることがないか考えてみたい。

6. 議題（４）今後の介護の魅力等発信部会での主な検討項目について

- ・魅力発信の細分化
- ・市町との魅力発信の手分け

※資料４により事務局から説明

【部会長】

- 現在のしがけあ等の事業は別と考えるのか。例えば企画会社をお願いしていくことも考えられるのか。

【事務局】

- 魅力発信の細分化のところは、補助事業でする内容を、部会で決めた内容に寄せていってもらうことをイメージしている。部会でケアマネージャーや訪問介護員を頑張ってアピールしていこうとなれば、補助事業の方にも取り入れ、細分化したものを知ってもらうというイメージである。

【部会長】

- 今やっている事業の中の細分化ということで、仮に同額だとしたら 1,500 万の予算の中で、こういうことにも取り組んでいくという話か。

【事務局】

- 例えば、フェスタの内容の中にケアマネージャーを含めた座談会的なものを入れる、訪問介護員のアンバサダーがおられたら、その方にインタビューをして訪問介護の仕事の面白いところを発信してもらうことを想定している。
- このようなフェスタへの組み込みや、既存のアンバサダーのインスタ等の SNS 発信、また委託業者をお願いするときもケアマネージャーや訪問介護員の視点を持って企画を考えてほしいと伝えるようになるかと考えている。

【部会長】

- 県からの委託要綱の中に含まれてくるようなイメージか。

【事務局】

○話し合いの結果によるが、皆さんの意向がそうであれば要綱の方にも反映させたいと考えている。

【委員】

- 今年度を踏まえた中で来年度どうしていくのか、ケアマネージャーと訪問介護員は今喫緊の問題であり、今までやってきた取り組みプラスアルファでやっていかないといけないと考える。介護職員も充足してるわけではないので、引き続きやらなければいけないと考える。
- イベントや SNS のことに関して、私達は素人なので全くプロを使わないというのは無理かと思うが、プロを使う業者は一度見直して、お金をかけないやり方をしてもいいかと考えている。大津市と県のイベント両方に関わっているが、大津市のイベントは上手くコストをかけずにやっている印象がある。低コストでも十分なことのできるのではないかな。今回も介護福祉士会が協賛を集めるのは大変だったと考える。この業界はお金集めは得意ではなく、イベントも苦手なので、バランスをとった業者に頼んでやっていくことがいいかと考える。
- 今まで積み重ねてやってきた中で、アンバサダーがポイントだと思うので、魅力発信に関してはアンバサダーを利用して発信をどんどん進めて行くことが魅力発信に繋がっていくのではないかと考える。

【部会長】

○事業の方向性としては賛成という感じか。

【委員】

○そうだ。

【オブザーバー大津市】

- 市町との役割分担の図の中で教えていただきたいことがある。一番左の地域の事業所や介護職員の魅力の発信が市町に入っていて、県のほうで介護の仕事の魅力の発信とある。同じようなことを分ける必要があるのか。
- 左から二つ目の入門的研修で、今回大津市で初めて入門的研修の中で事業所の見学会も含めてやったところ、とても好評だったので、やっていただいた方がいいと考える。
- 三つ目の市町内の就職フェアだが、令和 4 年に大津市で就職フェアをやったと聞いているが、事業者さんは来ていただけるが、参加者(求職者)が来られないので難しいという印象がある。これを市町に求められて他市町はどのように考えておられるかわからないが、難しいという印象を受けた。

【オブザーバー草津市】

- 一番左の地域の事業所や介護職員の魅力発信というところで、地域の事業所とした段階で、公が民を個別で魅力発信していくとなれば不可能だと考える。例えば、こういうサービス形態の部分ということであれば、不可能ではないかもしれないが、これにおいても県と被る部分がある。この書き方だと乗り切れない。
- 入門的研修は国からのメニューに沿ったものだけの話になるのか。入門的研修という言葉を使おうと思ったらどうなるのか。

【事務局】

○研修修了書を出すとなると、国の示すやり方でやるということで都道府県と市町しかできないということ

になる。

【オブザーバー草津市】

- 介護のイメージアップや入職を考えるに至るところが目的であれば、国のメニューが多すぎて、その時間に何の興味もない人を1回に集めてするということ自体がハードルが高い。国の言う入門的研修を市町主体でと言われたとき、人を集める自信がない。入門的研修ではなく一般的な出前講座的な内容の中に、内容にこだわらず介護職の魅力を発信することなら、協力も可能かもしれない。国のメニューでいくと難しいと考える。
- 草津市も湖南4市合同で過去に何年も続けて就職フェアを行い、参加者が年々減っている状況であった。結論から言うと、就職フェアを圏域でやったとしても、そこまでの効果がない。定着支援の方で考えているのが現状である。県全体でも同じような現象が起こっていて、効率的な方法を根本的に考えなければ、マッチングについては難しいと考えている。

【事務局】

- 大津市の質問について、魅力発信を分ける必要があるのかというところは、県のしがけあサイトの内容と被ったものを、各市町で発信されてももったいないからである。すみ分けをしようすると、介護の仕事という全体のことは県が魅力発信事業でしてきたので、市町では市町の事業者の魅力をもって振り返ってもらえるような発信をして欲しいということになる。
- 例えば、フェスタで事業所がブースを出されている、それが事業者の魅力発信、地元の方をもっと前に出してあげる発信で、公が民をというところに引っかからない形をイメージしていた。今、大津市と草津市に聞くだけでも多数意見が出てきたので、意見を聞きながら決めないといけなさと感じた。
- 入門的研修は基礎講座と入門講座に分けて、基礎講座だけでやったら来るということはないか。

【オブザーバー草津市】

- 基礎講座だけでもハードルが高い。効果がどの程度あるのか考えたときに、まずは知ってくださいというところだと考えている。もう少しハードルを下げるとやりやすいと思う。

【事務局】

- 入門的研修でポイントになるのは、修了証がもらえて今後の研修が一部免除になるところだと思うが、ハードルは確かに高いと考えている。それは滋賀県だけでなく国も思っているから、入門的研修から就職に繋げるようなモデルを創出して下さいと国のお金が県に下りてきて、今年度から新たにモデル事業を実施する。このモデル事業の中で良い形ができれば共有させてもらいたいと考えている。
- 就職フェアについて、なかなか人が集まらないということは、人材センターからも聞いている。人材センターや市町の方の意見を聞きながら、どういった工夫を加えたら、うまくいくのか考えていきたい。

【委員】

- 入門的研修が難しいのであればやめればいい、見学ツアーだけでもいいのではないかと考える。以前言ったが、就職フェアはやっても意味がないのではないか。人が来ないのにそこにお金をかけるなら、もっと違うところにお金をかけていくことが、人口の少ない人材を確保していくためには必要になると考える。

【部会長】

- フェアについて、市の人材確保の取り組みの中で、甲賀市事業者協議会でも就職フェアの企画を毎年している。

○今年度、就職フェアは人が集まらないのでやめて、フェスタのようなことをすることで話が進んできた。しかし、事業所から就職フェアはしてもらわないと困るという声が上がってきた。介護ではそういう声は少ないが、障害のほうは就職フェアに重きを置いている。地域性なのか、就職フェアをすると障害のブースには人が集まるが、介護のブースには集まらないという構図もある。フェアをしないことに対し、事業所側から文句が出たということは現状としてはある。

【委員】

- 重点的に魅力発信しないといけないケアマネや訪問介護員について、県民に対しては介護と接点を増やすという感覚だと思うが、介護職からもう一段階あるケアマネと訪問介護員は、介護職に就いている中での魅力発信が必要な部分があると思う。
- 市町の魅力発信は大事だが苦戦している。東近江市でハローワークと組んで、今年度2か所くらい事業所の見学とセットで見学者を集めるが10名も集まらない。
- どうするのかということで、地域性の違いを聞かせていただくと参考になることもあるため、どの地域も共通していることも合わせて考えて、市町で何をしていくかということ、地域で考えると見えてくるのではないかと考える。

【委員】

- 入門的研修に関しては、講師をしているのだが、介護のことをちょっと知りたいと、時間が空いていて就職する気のなさそうな年配層の方が来ているのを見ると、すごく残念である。
- 魅力を発信するときに、その日だけで終わるイベントではなく、しがけあのサイトのように常に動画等で見れるというのが有効だと考える。小中学生も今 iPad 等を持ち、昼休みも動画を見ている状況なので、生徒さんが見れるような形かつ身近なところに魅力発信の動画をのせて、うまくそこに誘導できないかと考える。

【委員】

- 今年の夏に行った就職フェアに関しては、来場者数は一定数あったが就労に繋がった数が例年に比べると非常に低かった。来場者は見学にはたくさん行ってくれたが、面接となると1桁しか繋がっていない。人材センターとしても面接に行かれた後に声はかけにくいので、あとで事業者さんから聞いたらそういう返事をいただいた。
- 市町単位での説明会に関しては、地元で探している方が参加することが多いためか、マッチング数は非常に安定した状況で推移している。
- 今回、近江八幡市がG ネットでされ、当センター相談員も行ったが、人数は驚くほどの来場者数ではなかったという話だった。来月、高島市で就職フェアもあるので、そちらの方にも顔を出し伺っていきたい。
- 入門的研修に関しては、県の委託を受け県内4ヶ所で開催している。市町の方でいろいろなところでされている。市町でする入門的研修に関しては最終日に顔を出し、就労支援という形で話をしている。特に、今回大津市では入門的研修の最終日に共催事業として説明会と、説明会に来てくださる法人の若手との交流会をして、来場者数も全部で30名近くまで伸びた。そのようなことも他の市町とも連携してやれたらいいと考えている。現状では、見学付きの入門的研修を湖南市がしており、受講生は20名以上、見学に関しては希望者だけを募り、4、5名くらい希望されている。このような形の入門的研修もあるということも情報としてお伝えしたい。

【副会長】

- ケアマネジャーの魅力発信について、専門職向けの魅力発信が一番大事かと思うが、無資格の方々にもケアマネジャーの魅力発信等はしていく必要はあると考えている。また、様々な場面でケアマネ

ジャーの魅力を発信してもらえればよいと思うので、細分化し発信する機会を取っていただければありがたいと考えている。

【委員】

- 魅力発信事業という枠組みでなので、薄く広くメッセージを発信し、少し気付いてもらうことが前提になっている事業だと考える。薄く広く気づいてくれたら御の字ということであるが、委員の半ば悲鳴のような現場の人材ニーズというのを聞いて思うのが、今は薄く広く発信しました、効果はよくわかりませんで済ますような段階ではなくなってきているということである。先ほどのライトアップのように、市民の側から感謝の意を伝えていく、感謝する心を啓発していくというのは大事であるが、人材を獲得するという意味においては今のやり方では手ぬるいのではないか。
- 情報技術が社会に与える影響というところを基本的には研究しているが、最近の求人求職サイトというのは、基本的にスカウト型である。例えば、インディードやビズリーチもそうだが、狙っている層が違うがいずれも大きく成長している。インディードの方が介護人材については相応しいと思うが、どういうものかという、少しでも関心を持った方が求職したいと登録することが最初のアクションで、その時にその人はどういう思考を持ってるのか、どうなりたいのか、何が嫌なのかということを、うまい具合に入力させ把握し、その人にふさわしい職を紹介するという構造になっている。それをデジタル的にやる。今やらないといけないのは、スカウト型のプログラムに誘導することだと考える。
- インディードの話は一般的な求人、求職の話だが、医療関係や看護師の世界では、スカウト型が大分普及してきていると聞く。そういった方々の中で、実は介護の仕事がびったりしているという方が結構いるのではないか。その他のお仕事をされている方も多いのではないか。今までの薄く広く情報という発想はもうやめてしまった方がいいぐらいに考えている。もっと戦略的に結果を意識した活動にシフトさせないといけないような気がする。

以 上